

施策	26	スポーツの振興	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり		
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	北澤 俊規	内線	3730	政策担当部長名	教育次長 三浦伸一
施策関係課名	公民館、学校教育課、保健課						
重点施策	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画、地域健康ケア計画					

1 施策の目的

目的	対象	市民
	意図	①日常的にスポーツに親しむ ②スポーツ振興の担い手になる

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
① 住民人口	人	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	101,743	100,957			
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理											
① 週1回以上ウォーキングやスポーツを行っている市民(成人)の割合	%	34.6	37.3	38.1	38.8	36.0	38.8	38.8	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向
② スポーツ指導者数	人	926.0	927	929	932	938	939	997	930		◎

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムス指標と把握方法と単位	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向			
行政	市(国・県) ①スポーツ事業を企画実施する ②スポーツ施設環境を整備する ③スポーツ指導者を育成・派遣する ④スポーツ活動を支援する	①スポーツ事業、講習会の開催回数及び参加者数 ②社会体育施設の利用者数 ③スポーツ事業へのスポーツ推進委員の派遣者数、指導者養成のための講習会等の回数(延数)	①	137 7,988	138 8,078	137 7,281	142 7,987	139 8,276	120 8,200	○		
			②	971,552	954,184	919,496	991,808	949,325	950,000	○		
			③	143 5	122 5	115 5	143 6	115 13	160人 7回	○		
主体	役割分担	ムス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項(後期5箇年)									
市民等	個人	①ウォーキングやスポーツ活動を実践する ②スポーツを観戦する	①.1 スポーツサークルの数及び所属している人数 ①.2 週1回以上のスポーツを実施している成人の割合(国の目標50%) ② 体育協会加盟団体主催の競技大会、講習会に参加した人数	・およそ600の社会教育団体が、学校開放施設や社会体育施設を利用して多様な競技種目の普及推進を行った。 ・スポーツをする人、みる人、支える人として各種大会や講習会などに多くの市民等が参加した。特にやまびこマーチのPTAコースは、毎年参加者が増加している。								
	地域的団体(公民館活動含む)	①気軽にウォーキングやスポーツに親しめる「場」を提供する ②スポーツを通じた良好な人間関係づくりを進める	①②地域のスポーツ活動の開催回数及び参加者数	・全ての地区公民館で、ウォーキングの講座や関連事業を実施し地区レベルからのウォーキングの普及に取り組んだ。 ・スポーツ推進委員は、全市及び各地区で「いつでも、どこでも、誰でも」気軽にできるニュースポーツやウォーキングなどを楽しめるよう助言や実技指導等を行い、スポーツの推進役として積極的に活動した。								
	体育協会	①競技スポーツを振興する ②各種スポーツ事業を企画実施する(大会、講習会、講演会)	①スポーツ事業、講習会の開催回数及び参加者数 ②指導者の派遣回数、指導者数	・飯田市体育協会は、平成24年4月から公益財団法人に移行し組織体制が強化された。市民の体力・運動能力向上に向けた取組や競技力向上に向けた支援、指導者育成、各種大会・研修会の開催・助成を行うなど幅広く各種事業を展開した。 ・飯田市体育協会は、平成28年2月19日に「飯田市スポーツ振興ビジョン」をとりまとめ、ビジョンを実現するため、具体的な取組を進めている。								
	事業者	①企業内スポーツを推進する ②各種スポーツ事業を支援する	①企業内スポーツ団体数 ②市主催のスポーツ事業への共催・後援・協賛企業数 ③民間スポーツ事業者数	・各種スポーツイベントに多くの企業・団体から、協賛金や物品の提供等の支援をいただいている。 ・民間のスポーツクラブ等は、市民の体力・運動能力向上の場及び競技力向上の場となっている。								
役割の発揮状況												
後期(5箇年)	行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果	・スポーツイベント等の開催については、多様な主体が参画する実行委員会を組織し、多様な意見を事業に反映させることで参加しやすい大会として充実を図ってきた。また、実行委員会体制の強化・充実も行ってきている。 ・スポーツ推進委員、飯田市体育協会、地区公民館、PTAなどと協働して、スポーツ教室、講座、親子レク及び各種大会などの開催や指導者等の派遣並びに地域課題についての意見交換会など、地域レベルでのスポーツ推進の支援を幅広く行った。その結果、全ての地区で、継続して多様なスポーツ事業が実施されている。										
	多様な主体の協働を推進していくための課題	・子どもの体力・運動能力の低下や成人の運動不足など喫緊の課題に対処していくため、多様な主体が共通認識を持ち、それぞれの役割や責任を果たしながら協力・連携していく体制をさらに強化していく必要がある。										

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

<p>この施策に対して有識者等(議会、市民、関係者・団体等を含む。)からどんな意見や要望が寄せられているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模屋内体育施設や芝生グラウンド建設の市民要望があることを踏まえ、調査研究をしてほしい。(スポーツ関係団体、競技団体、議会) ・全国、県外規模の質の高い大きな大会を飯田で開催して子どもたちに見てもらい、子どもたちに元気が出ることも大切なスポーツ振興の視点だと思いで検討してもらいたい。(基本構想推進委員会) ・スポーツ施設の利用について、予約手続きの簡素化や利用時間帯の見直しなど利用者の利便性向上に取り組むことが必要。(市民) ・ラグビーワールドカップ2019、東京オリンピック・パラリンピックの開催でスポーツの機運が高まっている。(スポーツ関係団体) ・スポーツをする子どもとしない子どもの2極化が進み、中学校の部活動でチームが編成できない学校がある。小学校段階でスポーツ好きな子どもを育成するため、体育授業の充実や各学校の特色を生かした運動の取組みなど学校現場における役割分担を明記するべきである。(スポーツ推進審議会委員) ・ニュースポーツフェスティバルは、若者を中心に約1,000人が参加する大会で、県内では他に類を見ない。飯田市独自の事業として、さらに発展していくことに期待する。(スポーツ推進審議会委員) ・スポーツイベント等への市民参加を促すには、市民、企業等へのきめ細かな働きかけが重要である。(スポーツ推進審議会委員) ・スポーツの振興におけるソフト事業は充実しており、他の自治体にも負けない取組がなされている。(社会教育委員)
<p>施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力運動能力の低下傾向と運動習慣の2極化という課題がある。特に中学生女子の運動離れが顕著である。 ・成人のスポーツ実施率が向上しない。 ・市では「安全で安心な公共施設の提供」を図り、将来の社会状況や財政状況や市民ニーズを見据えた公共施設全体の最適化を進める「飯田市公共施設マネジメント基本方針」を策定した。 ・平成26年2月に県教委から、中学生期にとってのスポーツ活動が適切な活動となるよう「長野県中学生スポーツ活動指針」が示される。 ・2019年にラグビーワールドカップ、2020年に東京オリンピックの開催が決定。 ・2027年に開催される第82回国民体育大会を長野県に招致しようとする動きがある。 ・文部科学省の外局として、スポーツ行政を一元的に担う「スポーツ庁」が平成27年10月1日に設置された。 ・平成29年4月に飯田市スポーツ推進計画を策定した。いかに実践していくかが課題。

4 評価結果(後期5箇年)

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

5 後期5箇年の取組評価(主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因)

【評価結果の理由】

○飯田市体育協会やスポーツ推進委員協議会などの多様な主体と協働して、ウォーキングやニュースポーツなど日常生活で幅広い年齢層が気軽に楽しめる運動の普及推進に重点をおいた取組を進めた。やまびこマーチやニュースポーツフェスティバルなど全市民的なイベントの開催、コーディネーショントレーニングを取り入れた運動能力の向上教室、地区公民館が中心となり実施した各地域でのウォーキング講座や各種スポーツ大会の開催など、市民に多様なスポーツ事業を提供することができた。

【事務事業群テーマ別の評価】

<スポーツ施設の整備・維持管理>

○施設の改修計画と緊急性、安全性を考慮して、プールの施設設備改修や総合運動場第2種公認陸上競技場認定対応工事など、社会体育施設等の整備改修を行った。

○「やらまいか提言」などで市民から要望が高かった「インターネットを利用した公共施設予約システム」について、スポーツ施設を先行し稼働させた。

○市民サービスの向上と施設運営の効率化を図るため、アクアパークIIDAと市民プールの2施設に指定管理者制度を導入した。

○飯田市が管理するスポーツ施設は、社会体育施設(44施設)と学校開放体育施設(56施設)の合計100施設で、各施設の年間利用者数は延べ概ね100万人。

<ウォーキングの普及推進>

○スポーツ推進委員協議会、保健課、公民館と連携し、各地域でウォーキング講座を開催することにより、地域レベルからのウォーキングを普及促進するきっかけづくりを行った。その結果、各地域の多様なウォーキング事業の実施につながっている。

○「ノルディック・ウォーク」や「歩育」の講習会等を開催し、幅広い世代が楽しめる新たなウォーキングスタイルの提案・普及および指導体制づくりを図った。

<参加しやすい事業の実施>

○多様な主体と協働して、やまびこマーチ、60歳以上ソフトボール大会、風越登山マラソン、ニュースポーツフェスティバルを開催し、多くの市民が参加している。

○実行委員会の組織体制の強化・充実を行い、多様な主体の様々な意見を企画や運営に反映させている。その結果、やまびこマーチでのミニコンサートの実施やノルディックウォーク、歩育コースの新設などにつながった。

<スポーツに親しむための意識啓発>

○スポーツ推進委員が中心となり、各地区公民館や小中学校で「誰でも、いつでも、どこでも」気軽に楽しめるニュースポーツの普及を中心に講習会や交流会などを実施し、地域レベルでの意識啓発に取り組んでいる。

○小学校(1校2年生児童)の体育の授業に、コーディネーショントレーニングをモデル事業として導入した。導入前後の測定結果から、反復横跳びや障害物走などで測定値の向上が見られ、児童からも「運動が楽しくなった」という感想が多数あった。

○飯田市体育協会と連携して、親子や子どもを対象にした「スポーツがうまくできる喜びや楽しさを感じ、スポーツをする意欲を高める教室」を継続開催している。

○間近でトップアスリートのプレーが見られるように、トップスポーツの試合等の開催やトップアスリートとの交流の機会づくりを支援している。

<スポーツ指導者の育成>

○飯田市体育協会と協働して、子どもの運動能力の向上を図るため、コーディネーショントレーニングの指導者育成事業を継続開催するとともに、この取組を通じて設立された指導者組織の事業運営を支援している。

○青少年期のスポーツ活動において、スポーツ指導者が指導上特に配慮すべき基本的な事項についてまとめた「飯田市社会体育活動における青少年スポーツ指導の指針」を策定し、発達段階における指導ポイントを踏まえた適切な指導について啓発活動を行っている。

6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

- スポーツ行政を総合的に推進していくための指針として、「スポーツ推進計画」を策定し、市民、地域、スポーツ関係団体、学校、行政などが共通に認識することで、飯田市のスポーツ推進の充実を図る。
- スポーツの概念を広く捉えた施策を進める。
- 喫緊の課題である「こどもの体力・運動能力向上」、「スポーツの習慣化」に向けた取組みを充実・強化する。

<スポーツ施設の整備・維持管理>

- スポーツ施設の老朽化に伴う更新・改修コストの増加が避けられない状況で、現在あるすべての施設をそのまま維持することは難しくなっていることから、市民サービスへの影響を最小限に抑えながら、市民ニーズに合わせたスポーツ施設が提供でできるようスポーツ施設全体の最適化を進める。
- 各スポーツ施設の設定目的や利用状況等により、指定管理・地元管理・直営管理する施設に区分し、より効果的・効率的で利用しやすい管理運営を進める。
- スポーツ施設の整備・改修については公共施設マネジメント基本方針に則って検討を行う。
- プロスポーツや広域的な規模の試合・大会に対応できるよう広域的なスポーツ施設については、南信州広域連合の取組みに参画し検討を進めていく。
- スポーツ施設使用料の減免基準の明確化をしたが、引き続き正確な運用を行いたい。

<ウォーキングの普及推進>

- 成果指標の「週1回以上ウォーキングやスポーツを行っている市民(成人)の割合」は、横ばい傾向が続いていることから、やまびこマーチや各地域でのウォーキング講座などウォーキングを始める機会はあるものの、運動習慣の定着に結びついていないと考えられる。今後は、各公民館やウォーキング団体と連携して、ウォーキングの習慣化に向けて毎月1回の定期的に開催するウォーキング事業を重点的に取り組む。

<参加しやすい事業の実施>

- 各地区の公民館、スポーツ推進委員が連携して、高齢者やスポーツが苦手な方でも気軽に楽しめるニュースポーツ体験会等のスポーツイベントを充実させる。
- 障がい者と一緒にはスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、やまびこマーチのコース設定や障がい者スポーツ支援団体が開催する障がい者とのスポーツ交流事業への積極的な参加をしていく。

<スポーツに親しむための意識啓発>

- トップアスリートのプレーを間近で見るとは、市民のスポーツへの関心と子どもの競技力向上につながることから、トップスポーツの試合の誘致等やトップアスリートとの交流の機会を拡大に取り組む。
- 社会環境や生活様式の変化から、幼児期に体を動かして遊ぶ機会が減少し、多様な動作(身のこなし)ができる能力や体力に影響を与え、成長してからのスポーツ嫌いやスポーツ離れにつながっていることから、保育園や保健課と連携し幼児期の「外遊び」の重要性を保護者等に啓発していく。
- スポーツが「うまくできるようになる」喜びや楽しさを感じ、スポーツをする意欲を高めていく必要があり、飯田市体育協会や指導者組織と連携して、運動能力を高めるコーディネーショントレーニングの定期教室の開催や学校・保育園への導入を進める。

<スポーツ指導者の育成>

- より高度な競技レベル・指導者を求めて市外の高校への進学を選択する学生が増える傾向にあること。また、指導者には「スポーツを安全に、正しく、楽しく指導し、スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさを伝えることができる資質能力」が求められていることから、飯田市体育協会と連携し、指導者の知識、指導技術向上を図るための指導者講習会の充実と日本体育協会等が認定する公認スポーツ指導者の資格取得を促す。
- 競技種目や地域によっては必要な能力を有するスポーツ指導者が不足している状況があることから、飯田市体育協会による「指導者人材バンク」の充実を支援し、適切な指導能力を持つ指導者を紹介できる体制を整備する。